



農業改善事業の先駆地中荒井村の南の広土

よる耕起・整地の時代は自動耕耘機などに移行しはじめていたが、さらに、これにトラクターがはいり、刈取りに、刈取機、コンバインなどを入れて、大規模な農業経営の様相を呈しはじめている。これは同時に、個人では容易でないから、共同施設に移行する傾向をみせている。

既に北会津村を南北に貫く中央大幹線道路は、中荒井地区より高田街道に達して、その側溝には用水がこんこんと流れていて、純農村地帯としては一偉観を呈している。新設の合併中学校の屋上から北の下荒井村方面をみると、構造改善の施行地域と、未施行地域の差が、あまりにも歴然として、将来の全地域施行後の様相を思いうかべてみる。これにひきかえて、西の方や、南の方の実施地域をみると、整然とした耕地が拡がり、嘗ては葦谷地、はんのき林が点在していた扇状地を、想像だに出来ないほどにしている。

三、県営圃場整備事業